

Report

ドイツの生涯学習施設 Volkshochschule 視察



2007年12月

神戸市シルバーカレッジ

カレッジマネージャー 藤原 博史

1. はじめに

- (1) Volkshochschule (フォルクスホフシューレ)とは、20世紀初頭にドイツ各地で設立された成人教育のための学習施設。日本のような高齢者だけを対象とした生涯学習施設ではなく、子どもから高齢者まで、幅広い世代を対象としている。
- (2) 現在、ドイツには、VHS※が約 1,000 か所あると言われており、今回は、Leipzig と Dresden の 2 か所の VHS を訪問した。

※ VHS …… Volkshochschule の略



2. VHS Leipzig 訪問

- (1) 日時 2007年12月10日(月) 13:00~15:00
- (2) 場所 Löhrstraße 3-7 Leipzig
- (3) 相手方 Leiter (リーダー) Rolf Sprink (VHSの責任者)

(4) 施設の概要

- ① 組織 Leipzig市が設置したVHSで、Leipzig市の組織の一つ。
- ② 立地 街の中心から徒歩約10分の市街地にあり、交通至便。
- ③ 歴史 1922年に創設されたVHSで、85年の歴史を有する。



(5) VHSの講座(Kurs)の特徴

- ① VHSでは、ゼメスター制(年2学期)を採用し、半期ごとに受講生を募集。最低募集人員に満たなかったコースは開講されない。
- ② 授業は、1回限りの講座から、毎週1回~2回開催する講座など様々で、1回あたりの授業時間も90分が標準だが、開講講座により異なる。
- ③ 授業は、朝8:30から夜9:00までの間で行われる。午前のコースは高齢者向けのコース、午後は一般市民を対象に、夕方からは職業人を対象にしたコースが多い。
- ④ VHS Leipzigに限らず、どこのVHSも高齢者向けの講座(Kurs für Senioren)を設けており、高齢者の生きがい作りをサポートしている。

(6) 開講講座と受講者数

- ① 政治・社会、芸術、健康、語学、職業教育、コンピュータなどの分野で、様々な講座を開設。その数、半年で約 1,500 講座。
- ② 開講講座は、360 頁にもなる冊子(プログラム)で配布されているほか、ホームページにも掲載されている。
- ③ 授業は、VHS のほか、市内の Gymnasium (中高等学校) などを使って行われている。
- ④ 受講者数は、年間約 33,000 人。受講者の男女比は、男性 30%、女性 70%。

(7) 人員配置と講師数

- ① 職員数 25 名。内訳は、管理部門 4 名、専門分野リーダー10 名、専門分野スタッフ 4 名、会計・事務スタッフ 7 名。
- ② 専門分野のスタッフは、開講講座のシラバス作成等の事務を行っている。
- ③ 講師は、専門分野リーダーと外部講師とを併せ、年間約 750 人。

(8) 受講料

講座の内容等により大きく異なる。

例えば、

・高齢者のための英会話基礎講座	…	13 回 26 時間	€53
・高齢者のためのパソコン入門講座	…	7 回 28 時間	€85
・高齢者のための体操講座	…	15 回 23 時間	€49
・高齢者のための絵画講座	…	10 回 20 時間	€57
・高齢者のための BMW 工場見学	…	1 回 3 時間	€7

(9) 財政

- ① 運営コストに対する収入項目の比率
 - ・受講料収入 60%
 - ・ザクセン州からの助成金 25%
 - ・Leipzig 市からの運営費 15%
- ② シルバーカレッジでは、受講料収入の割合を、運営コストの 40%を目標に置いていると言ったところ、「神戸市は “großzügig” (心が寛容という意味)」という返事が返ってきた。

(10) 施設見学

- ① VHS の建物は、昔ながらの石造りで、歴史の重みを感じる建物。
- ② R. Sprink さんの案内で、ホール、創設時からの講義室、演習室、絵画室、ダンス教室、パソコン教室などを見学。
- ② 特に、ホール(写真右)は、歴史を感じさせる内装でありながら、LAN 配線が完備していた。



(11) 授業に参加

- ① 当日、開講していた“高齢者のための英会話基礎講座”（Englisch für Senioren Grundkurs I ※）に参加した。（ただし、この日は、参加者の都合で、14:30 授業開始）
※ 2007.10.22.～2008.01.28 毎週月曜日 12:15～13:45 13 回 26 時間 €53
- ② 自己紹介すると、参加者からは、「日本には行ったことがないが、神戸は地震があった街でしょう。」との答えが返ってきた。
- ③ 受講生の皆さんは、明るく、楽しそうに英会話の基礎を学習されていた。いずれ、外国旅行をするのを楽しみにしている様子だった。



(12) 意見交換で出た意見

- ① シルバーカレッジの Silver が髪の色を指すことは、説明するまでもなく言い当てられた。そして、ドイツでは、Goldies という言葉もあると言われた。その意味は、金銭的に裕福な高齢者を指し示すらしい。
- ② ドイツでは、ボランティアは名誉職として位置づけられ、社会的に評価されている。ボランティアに対する考え方に違いがあるようだが、シルバーカレッジでは、ボランティア活動を義務付けているのかとの質問が出た。
- ③ 高齢者が健康でアクティブな生活を送るには、人と人とのコミュニケーションが大切。このことは、日本に学ぶべき点が多い。
- ④ 政治、社会、環境など、社会科学をテーマとする講座は、受講者が集まりにくい。参加者は、芸術・創作分野など、自分の楽しみを開講講座に求める傾向がある。
- ⑤ 高齢者のパソコン講座の講師は、かつて VHS で学習した若い人で、世代を越えた交流が行われている。
- ⑥ 受講生同士で卒業旅行をする場合があるが、アメリカへ行く場合が多く、日本へ旅行するケースは少ない。私も、まだ日本には行ったことがない。

写真右 … 次頁のアンケート調査結果概要
VHS 開講コースのプログラム



(13) アンケート調査結果

Leipzig 市が、2006 年に VHS 参加者を対象に行ったアンケート調査の結果概要をいただいた。これは、その資料の一部である。

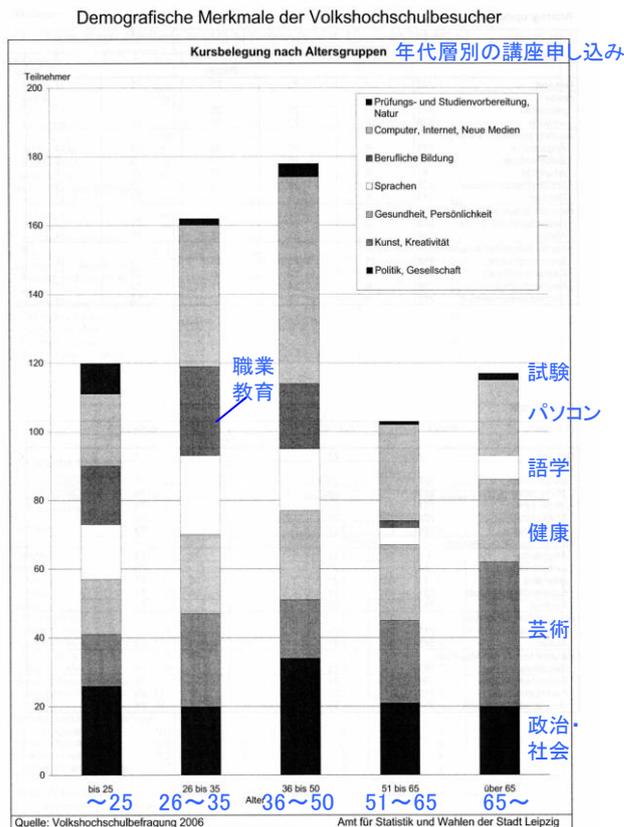
右のグラフは、年代層別に見た参加者の申し込み講座の分野のデータである。

① 回答者の年代層別構成

25 歳まで 18%、26～35 歳 23%
 36～50 歳 27%、51～65 歳 15%
 65 歳以上 17%

② 65 歳以上の参加者が最も多く申し込んだのが“芸術”分野の講座であり、他の世代に比べて際立っている。次に多いのは、“健康”や“パソコン”関連の分野となっている。

この傾向は、シルバーカレッジでも同様である。



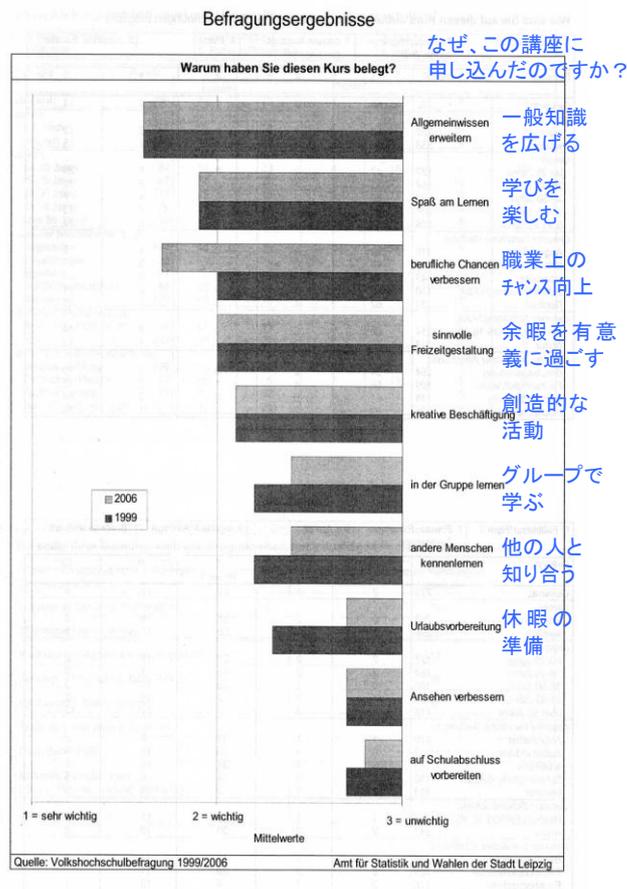
Stadt Leipzig, Amt für Statistik und Wahlen, Besucherbefragung Volkshochschule 2006 – Ergebnisübersicht

右のグラフは、講座に申し込んだ市民の志望動機について、1999 年と 2006 年のデータ比較をしたものである。

③ 志望動機で最も多いのは、“一般知識を広げる”で、続いて、“学びを楽しむ”や“余暇を有意義に過ごす”を挙げる人が多い。これらの動機は、シルバーカレッジと同じ傾向にある。

④ 7 年間で志望動機が大きく変わったのは、“職業上のチャンス向上”を挙げる人が増え、逆に、“グループで学ぶ”、“他の人と知り合う”、“休暇の準備”などを挙げる人が減ったことである。

これは、旧東ドイツ地域の失業率の高さ(ドイツ平均 11%に対し、旧東ドイツ地域は 19%)を反映した結果だと推測される。



Stadt Leipzig, Amt für Statistik und Wahlen, Besucherbefragung Volkshochschule 2006 – Ergebnisübersicht

3. VHS Dresden 訪問

(1)日 時 2007年12月11日(火)14:00~16:00

(2)場 所 Schifweg 3 Dresden

(3)相手方 Direktorin(ディレクター) Dr. Nadja Naumann (VHSの責任者)
ディレクター代理 Hans-Werner Schneider

(4)施設の概要

- ① 組織 e.V.(登記団体。日本の社団法人に近い)
- ② 立地 街の中心からトラムで15分ほどの住宅地の中にあり、交通やや不便。
- ③ 歴史 1919年に設立されたVHSで、88年の歴史を有する。



(5)開講講座と受講者数

- ① 社会、環境、健康、芸術、語学、職業教育、コンピュータなどの分野で、様々な講座を開講。その数、半年で約2,500講座。
- ② 2か所のVHS施設のほか、Gymnasium(中高等学校)などを利用し、市内約60施設で開講。
- ③ 受講者は、年間約30,000人。

(6)人員配置と講師数

- ① 職員数23名。内訳は、経営陣5名、団体職員2名、財務会計スタッフ3名、専門分野リーダー4名、専門分野スタッフ9名。
- ② 6つの専門分野を、各々リーダーが担当している。今日、お会いしたNaumann氏は、語学の分野の、Schneider氏は、社会と環境と健康の分野のリーダーでもある。
- ③ 専門分野ごとに数名いるスタッフは、各講座のシラバス作成や講師の調整等を行っている。
- ④ 講師(外部講師)は、年間800~1,000人。なお、リーダーも専門分野の授業を担当している。

(7)受講料

講座の内容等により大きく異なる。

例えば、

- ・高齢者のための英会話基礎講座
… 21回 42時間 €87
- ・高齢者のためのパソコン入門講座
… 6回 24時間 €120



(8) 財政

① 運営コストに対する収入比率

- ・受講料収入 40%
 - ・Sachsen 州からの助成金 30%
 - ・dritten Mitteln(第3の資金) 30%
- 受講料収入と dritten Mittel を併せ、70%が自主財源
… 各種プロジェクト等による収入(自主財源)

② VHS の自主財源が 70%というのは、ドイツでも最も高い値だそうだ。

③ Sachsen 州からの助成は、1 講座 1 時間(45 分授業)につき、約€10。

(9) 施設見学

- ① 講義室、演習室、調理室、パソコン教室、美術室、ダンス室、会計窓口、専門分野のスタッフルームなどを見学。
- ② パソコン教室では、講習課程の構成について説明を受けた。
- ③ 高齢者のためのフランス語講座を見学する予定であったが、今期最後の授業とあって、受講生はフェアウエルパーティに出かけ、残念ながら見学はできなかった。
- ④ その代わりに、絵画講座の受講生と会い、記念に水彩画をプレゼントされた。



(10) 意見交換で出た意見

- ① 高齢者にとって、コミュニケーションは大事。VHS は、その出会いの場となっている。
- ② 高齢者に人気のある講座は、高齢者のための体操、高齢者のための栄養、外国語の習得、絵画・デッサン、パソコン講座など。
- ③ クッキング講座の参加者は、男性 3 割、女性 7 割。ドイツでは、まだまだ料理は女性がするものという考えが根強い。シルバーカレッジでは、6 割が男性。
- ④ 90 歳を超える市民も、每期、VHS の講座に参加している。健康のため、自分の頭で考えることが大事。
- ⑤ 今の VHS の施設は、使われなくなった Grundschule(4 年制の小学校)の校舎を転活用している。来年、この VHS を建て替える計画があり、Dresden 市との協議で、建物は市が建設し、VHS Dresden e.V が賃貸することになっている。

(11) その他

- ① VHS Dresden では、オリジナルグッズを作っており、写真の物をいただいた。
- ② 最近刊行された VHS Dresden の歴史を書いた本「Geschichte der Volkshochschule Dresden 1919-2006」をいただいた。



4. まとめ

- (1) ドイツの VHS は、子供から高齢者までを対象にした生涯学習施設であり、一概に日本の高齢者のための生涯学習施設と比較することはできないが、生涯学習施設のあり方を考えるに際して、参考となる点がいくつかある。
- (2) VHS は、長い歴史を持ち、州や市からの運営費助成があることは承知していたが、運営コストに対する授業料収入の割合が、日本で思っていた以上に高かった。特に、VHS Leipzig の受講料収入が運営費の 60%に相当するのは、日本の生涯学習施設にとっても参考になる。
- (3) VHS の講座(Kurs)は、朝 8:30 から始まり、夜は 21:00 に終わる。その間、様々な講座が開催され、収益を生む施設利用となっている。この点は、日本の民間カルチャーセンターに近いが、VHS では専門分野ごとに教育指導者(Dr.である場合が多い)がいて、シラバスを作り、教育相談業務も行っており、生涯学習施設としての役目を担っている。
- (4) VHS はゼメスター制であるが、週 1 回半年続く講座ばかりではなく、3 か月で終わる講座、週 2 回の短期集中の講座、あるいは 1 日だけの講座も少なくない。いろんな講座が様々な形態で提供されており、市民は、自分の都合で希望の講座を選択することができる。また、最低募集人員に達しない講座は開講されず、常に市民のニーズが反映される仕組みになっている。
- (5) 市民は、一般知識を広げ、学びを楽しみ、余暇を有効に過ごすなどを目的に VHS の講座に参加しており、VHS が高齢者の生きがい作りをサポートする役目を担っている。これは、日本の生涯学習施設と同じである。
- (6) 特に、高齢者がアクティブな生活を送るためには、人と人とのコミュニケーションが東西を問わず大切であり、VHS や日本の生涯学習施設が、その出会いの場として機能していることで意見が一致した。
- (7) VHS でも、高齢者が求めるテーマは、自分のための学習、すなわち、芸術・創作分野、健康・いきがいつくりの分野等であり、政治、社会、環境などの社会科学、いわば重い学習は敬遠される傾向にある。これは、私が勤める生涯学習施設の現状とも一致し、意見を同じくした。
- (8) 最後に、Leipzig VHS リーダーの Sprink さん、そして、Dresden VHS ディレクターの Naumann さんとディレクター代理の Schneider さん、共に日本からやってきた私を歓迎していただいたことにお礼を言い、お互いの生涯学習施設の間に友好が芽生えることを付け加えた。